

卓越した大学院拠点形成支援補助金（海外研究活動）報告書

阿部由美子（中国）

（1）調査目的：台湾における満洲族関係資料の調査

中国近代史の資料は歴史的経緯から中国大陸と台湾に分散して所蔵されている。今回は2014年2月23-3月15日に台湾に収蔵されている清末から1940年代までの満洲族に関する資料調査と、現代の満洲族への聞き取り調査を行い、20世紀の満洲族社会の実態解明と、「旗人」から「満洲族」確立の過程を探る手がかりを得た。

（2）訪問機関：①故宮博物院図書館。清末の満洲族に関する上奏文を収集した。特に清末の八旗生計に関する議論や、旗人の改革推進派官僚の動向を示す文書を収集した。

②中央研究院。近代史檔案館及び傅斯年図書館で清末の旗人に関する資料を収集した。

③国史館。1930年代から1940年代の国民政府時期の満洲族に関する資料を収集した。日中戦争期に国民政府が満洲族の対日協力者の動向をどのように見ていたのか、それに対抗するためにどのように満洲族を取り込もうとしていたのかを示す資料を収集した。また戦後の満洲族による国民大会代表枠獲得運動、代表選挙などに関する資料を収集した。

④国民党党史館。1930年代から1940年代の国民政府時期の中国国民党の満洲族に関する資料を収集した。

（3）聞き取り調査：中華民国満族協会関係者

同協会は台湾における満洲族の連絡機関である。今回の調査では同協会では創設期から活動していた関係者に話を聞くことができた。台湾の満洲族に聞き取り調査をして感じたことは、彼らの先祖発祥地である中国東北地域への思い入れの強さである。彼らは自身のルーツを非常に誇りに思っており、80年代以降に中国大陸への渡航が可能になると大陸の満洲族との交流を積極的に行っている。一方で、若い世代は台湾社会で台湾化しており、将来的に民族アイデンティティが保てるのか不安に感じていることが伺えた。

台湾における資料収集と聞き取り調査によって20世紀の満洲族社会がどのような変遷を経てきたのかを多角的に理解することができた。この成果を博士論文に反映させたい。貴重な調査機会をいただいたことに深く感謝いたします。



左より、故宮博物院、中央研究院傅斯年図書館、国史館本館、国史館新店分館、中国国民党党史館